

小学生の英語学習に関する調査**小5・6生の6割が「教室の外で英語を使ってみたい」と回答****しかし、保護者の約6割は「外国語活動」に「満足していない」**

株式会社ベネッセホールディングス(本社:岡山市、以下ベネッセ)の社内シンクタンク「ベネッセ教育総合研究所」では、2015年3月に、全国の小学5・6年生とその保護者1,565組を対象に「小学生の英語学習に関する調査」を実施しました。英語教育の改革によって、2011年度から小学5・6年生に「外国語活動」が導入されました。しかし、その成果と課題についてはまだ十分に検証されていません。そこで、小学校の「外国語活動」の成果と課題を明らかにし、今後の英語教育の在り方を検討することを目的に今回の調査を実施しました。

主な調査結果は以下の通りです。

1. 小学5・6年生の6割が「教室の外で英語を使ってみたい」と意欲を示している。【子ども調査】

- 「外国語活動」について、「教室の外で英語を使ってみたい」と回答した小学5・6年生は61.5%（「とても+まああてはまる」の%）。「英語がわかったり通じたりするとうれしい」「英語の授業に一生懸命取り組んでいる」という回答も8割以上と高く、意欲的に活動に取り組んでいる(図1-1)。
- 「教室の外で英語を使ってみたい」という意欲は、将来、自分が英語を使うイメージと関連する。将来、自分が英語を使うと考える比率*は、「教室の外で英語を使ってみたい」と思う子どもが64.5%であるのに対して、「教室の外で英語を使ってみたい」と思わない子どもは46.9%である(図1-2)。
*「日常生活で外国の人と英語を話すことがある」+「いつもではないが仕事で英語を使うことがある」+「仕事ではほとんどいつも英語を使う」の合計。
- 「教室の外で英語を使ってみたい」と考える子どもほど、「中学校で英語を学ぶことが楽しみだ」「外国の人と友だちになりたい」などの項目を肯定(とても+まあそう)している比率がより高い(図1-3)。

2. 「外国語活動」は、英語で「コミュニケーションを図ろうとする態度」を育成している。【子ども調査】

- 「外国語活動」では、7割以上が「英語のあいさつ」「英語のゲーム」「英語のことば(cat, appleなど)を言う練習」「英語の発音練習」「短い文や質問を英語で言う練習」を「している」「いつも+時々している」と回答しており、英語の音声や表現に慣れ親しむ取り組みが多いことがわかる。「自分の考えや気持ちを英語で話すこと」といったコミュニケーションを意識した活動は少し比率が下がるが、56.2%が「している」と回答している(図2-1)。
- 「外国語活動」に対する態度では、7割以上が「あいさつや感謝の気持ちをできるだけことばであらわすようにする」「英語で話している人の気持ちや考えを理解しようとする」「わからない英語があっても続けて聞こうとする」を肯定(とても+まあそう)している。取り組みを通じて、「コミュニケーションを図ろうとする態度」が育まれている様子がうかがえる(図2-2)。

3. 保護者の約6割は「外国語活動」に「満足していない」。【保護者調査】

- 保護者の学校の英語教育内容に対する認知度は低く、約6割が「知らない」「あまり+まったく知らない」と回答している。(図3-1-1)。保護者の「外国語活動」に対する満足度は低く、約6割が「満足していない」「あまり+まったく満足していない」(図3-1-2)。
- 「外国語活動」に「満足していない」保護者は、「子どもが英語力の基礎を身につけること」「中学校での英語学習がスムーズになること」「英語を聞いたり話したりすること」で、「とても望む」の数値が「満足している保護者」よりも特に高かった。「満足していない」保護者は、小学校の英語教育に対する要求が高く、さらなる英語力の向上を望んでいる(図3-2)。

【結果からの考察】

今回の調査では、小学校の「外国語活動」で英語の音声や表現に慣れ親しむ活動が多く行われていることがわかりました。また、取り組みを通して、英語で「コミュニケーションを図ろうとする態度」が育まれている様子も見られました。【子ども調査】の結果からは、総じて小学校の英語教育が順調に行われている印象を受けます。

しかし、文部科学省が実施した「英語教育改善のための英語力調査」(2014年)によると、多くの高校生が「書くこと」「話すこと」といった表現力に大きな課題があることが指摘されています。今回の小学生を対象とした調査でも、「英語に慣れ親しむ活動」に比べて「自分の考えや気持ちを英語で話す活動」は少し低い比率でした。小学校の「外国語活動」をさらに充実させ、中学校や高等学校での課題を改善するためにも、コミュニケーションの楽しさを子どもが体験することが大切です。

そのような活動を充実させるためには、教員の指導力の向上が欠かせません。学習指導要領には「外国語活動」の目標について、「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」が重要と記載されています。教員研修や大学の教員養成課程で、その趣旨を徹底し、教員が指導力を高めるための支援をする必要があります。さらに、子どもが英語に触れる機会は、学校の中だけにとどまりません。小学校段階で多くの子どもたちが持っている「英語を使ってみよう」という意欲を大切に、行政、学校、地域、家庭や民間事業者などが連携して、英語でコミュニケーションする機会を増やしていけるとよいと考えます。

【保護者調査】では、大きな課題も見られました。保護者の「外国語活動」に対する満足度が低い点です。どのような活動をしているか知らない保護者が多いという実態もあります。子どもが英語に対する意欲や関心を高めるためには、家庭との連携が欠かせません。家庭で外国の文化やニュースに触れたり、家族で話題にしたりすることも重要です。保護者の協力を得るためにも、「外国語活動」のねらいや活動の様子を、行政や学校がもっと積極的に発信したほうがよいといえる結果です。

今回、2011年度から小学5・6年生に導入された「外国語活動」の成果と課題が、様々な形で明らかにされました。多くの子どもたちが「英語を使ってみよう」という意欲を持っています。この意欲を大切にしながら、コミュニケーションの機会を充実させる必要があります。ベネッセ教育総合研究所でも、本調査の結果をもとによりよい英語教育の在り方を引き続き考えていきたいと思えます。

●調査概要

| | |
|-------------|---|
| 名称 | 小学生の英語学習に関する調査 |
| 調査テーマ | 小学生の英語学習に関する意識と実態、保護者の英語に対する意識や英語学習観 |
| 調査方法 | 郵送法による質問紙調査 |
| 調査時期 | 2015年3月 |
| 調査対象 | 全国の小学5年生、6年生とその保護者 1,565組 * 東京大学社会科学研究所とベネッセ教育総合研究所共同研究「子どもの生活と学び」研究PJの調査モニター |
| 調査項目 | <子ども調査> 小学校での英語学習(実施状況、内容)、英語や外国に対する意識や興味・関心、英語の必要性と使うイメージ、学校外での英語学習、英語学習観、CAN-DO など <保護者調査> 小学校での英語学習に対する意識、学校外での英語学習、英語全般に対する意識、保護者の英語学習歴など |
| 調査企画・分析メンバー | 吉田 研作(上智大学 教授) 酒井 英樹(信州大学 教授) 長沼 君主(東海大学 准教授) 金子 真理子(東京学芸大学 准教授) 木村 治生(ベネッセ教育総合研究所 副所長、東京大学客員准教授) 加藤 由美子(ベネッセ教育総合研究所 主任研究員) 福本 優美子(ベネッセ教育総合研究所 研究員) |

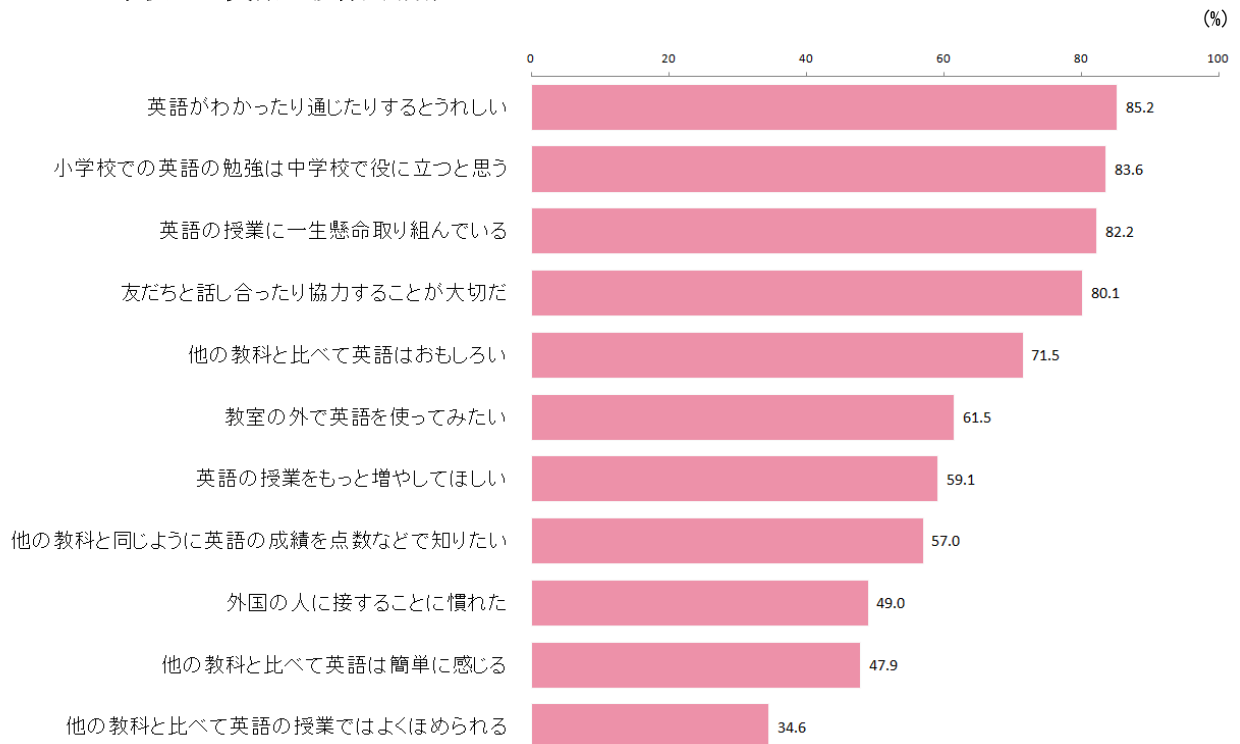
◆ベネッセ教育総合研究所のホームページから、本リリース資料をダウンロードできます。

<http://berd.benesse.jp/>

主な調査結果

1. 小学5・6年生の6割が「教室の外で英語を使ってみたい」と意欲を示している。

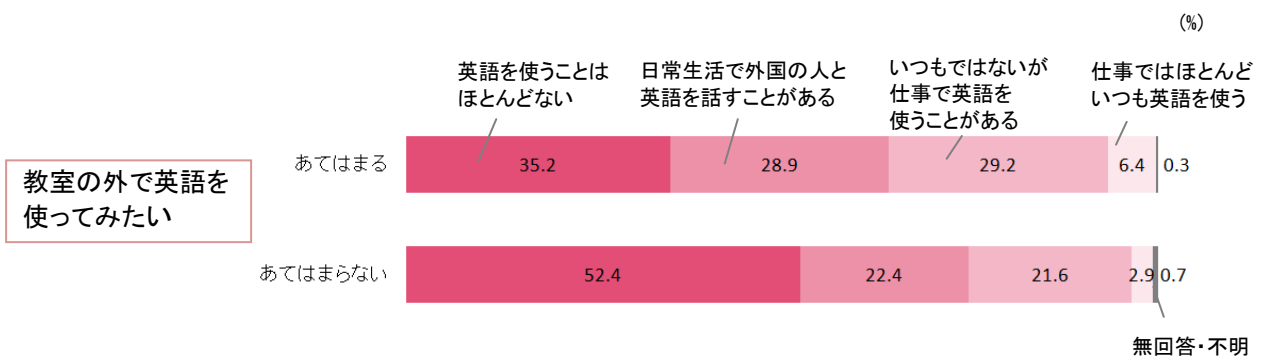
図1-1 学校での英語の授業や活動について



* 「とてもあてはまる」 + 「まああてはまる」の%。

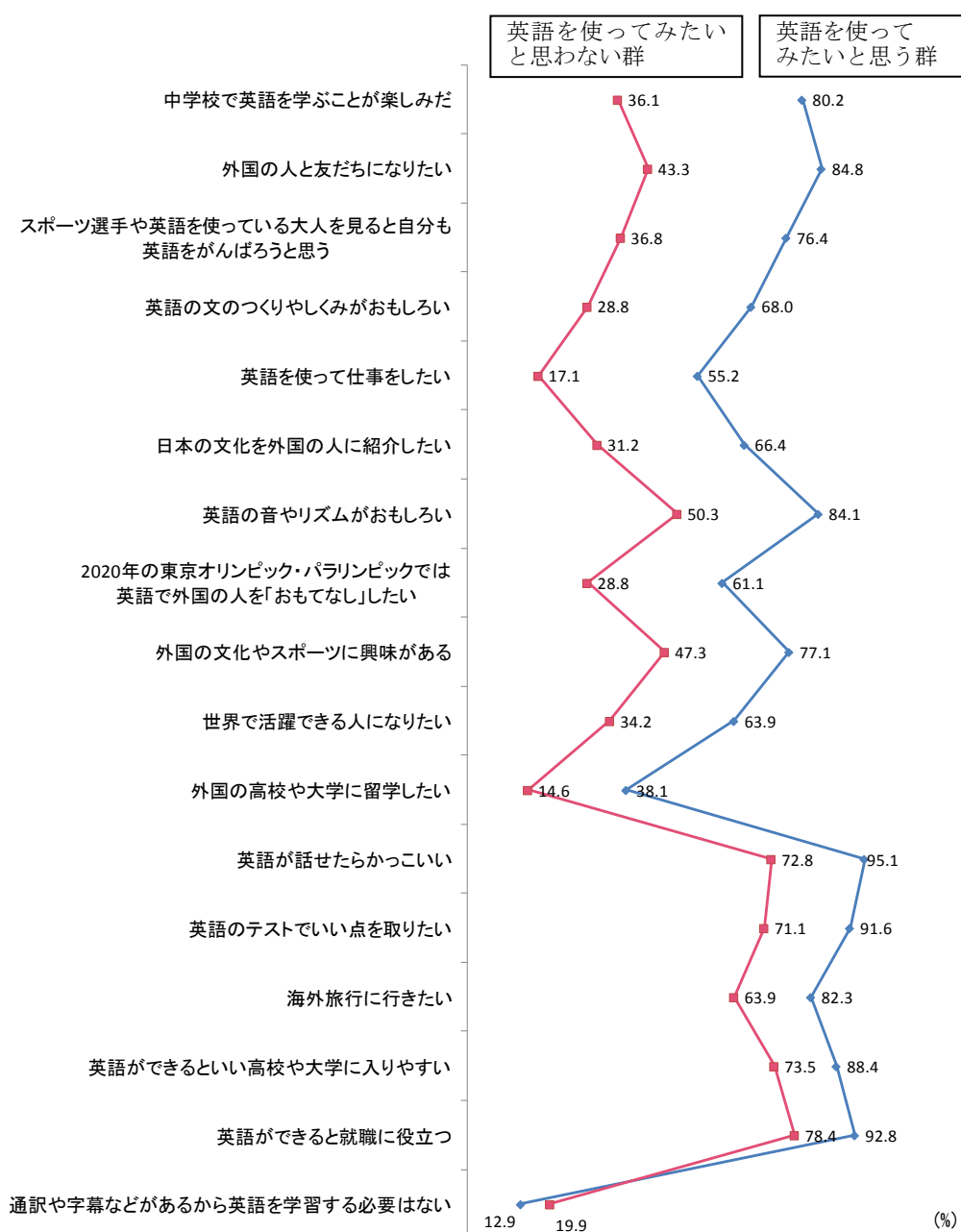
* 「学校では英語の授業や活動はありますか」について、「ある」と回答した人のみ。

図1-2 将来の英語の使用イメージ（「教室の外で英語を使ってみたい」意欲別）



* 「教室の外で英語を使ってみたい」という項目で、「とてもあてはまる」「まああてはまる」と回答した人を「あてはまる」、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と回答した人を「あてはまらない」とした。

図1-3 英語に関する意識（「教室の外で英語を使ってみたい」意欲別）



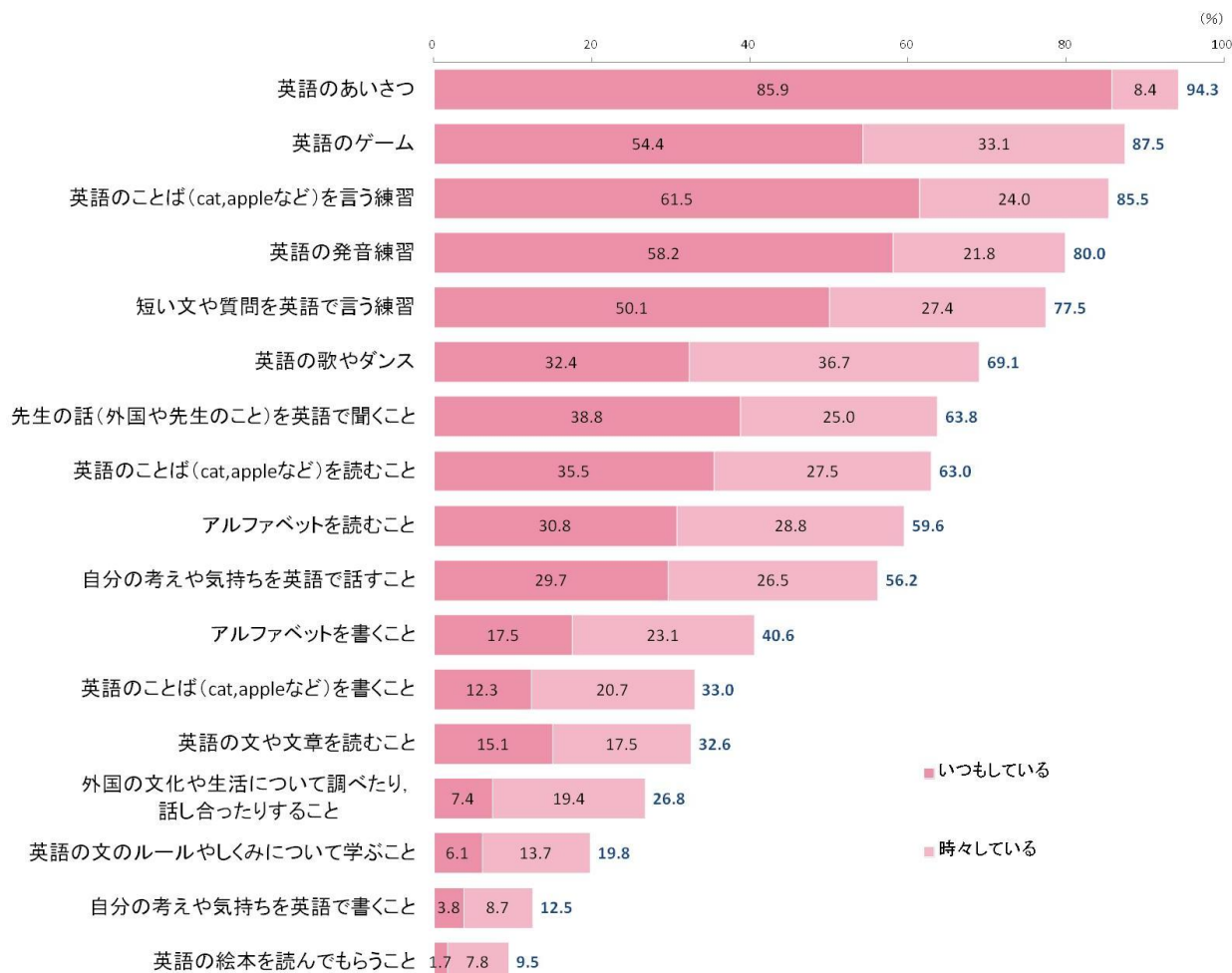
* 「とてもそう思う」 + 「まあそう思う」の%。

* 「教室の外で英語を使ってみたい」という項目で、「とてもあてはまる」「まああてはまる」と回答した人を「英語を使ってみたくと思う群」、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と回答した人を「英語を使ってみたくはない群」とした。

* グラフは、「英語を使ってみたくと思う群」と「英語を使ってみたくはない群」の差が大きい順に表示している。

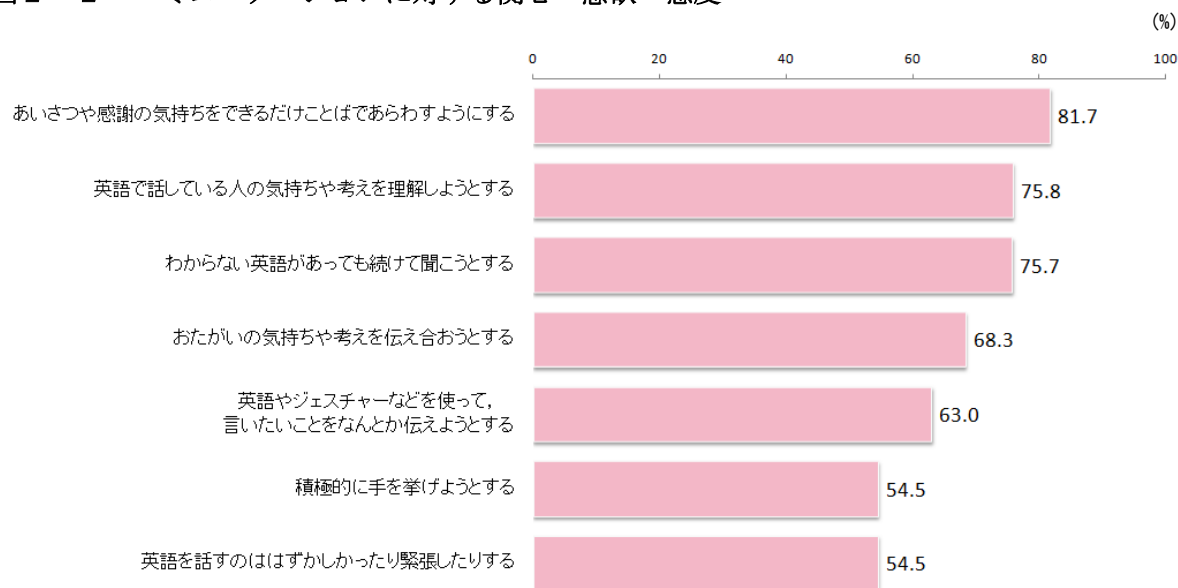
2. 「外国語活動」は、英語で「コミュニケーションを図ろうとする態度」を育成している。

図2-1 学校での英語の授業や活動



* 「学校では英語の授業や活動はありますか」について、「ある」と回答した人のみ。

図2-2 コミュニケーションに対する関心・意欲・態度

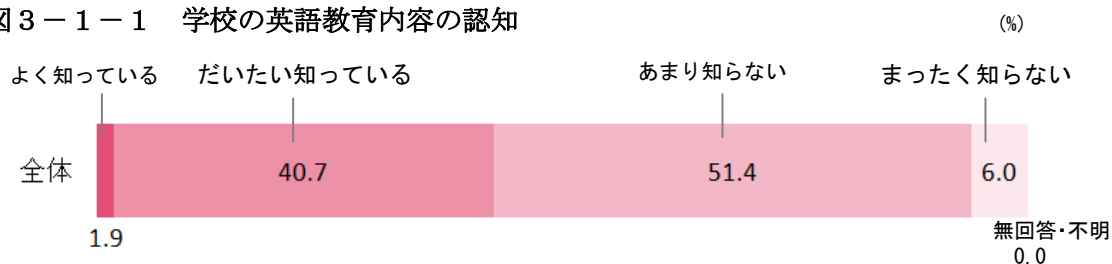


* 「とてもそう」 + 「まあそう」の%。

* 「学校では英語の授業や活動はありますか」について、「ある」と回答した人のみ。

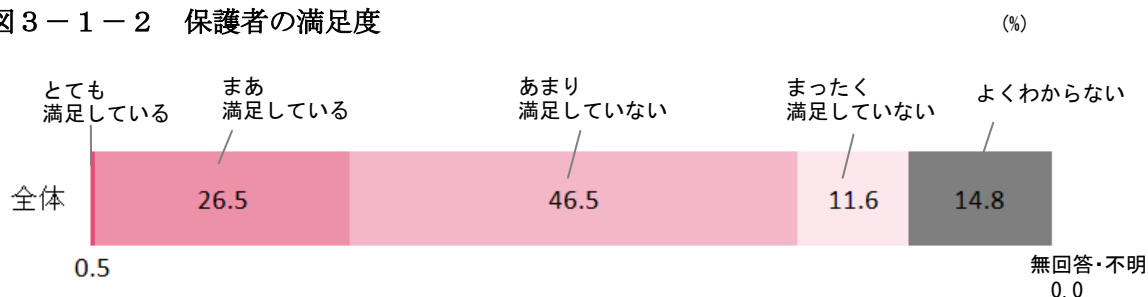
3. 保護者の約6割は「外国語活動」に「満足していない」。

図3-1-1 学校の英語教育内容の認知



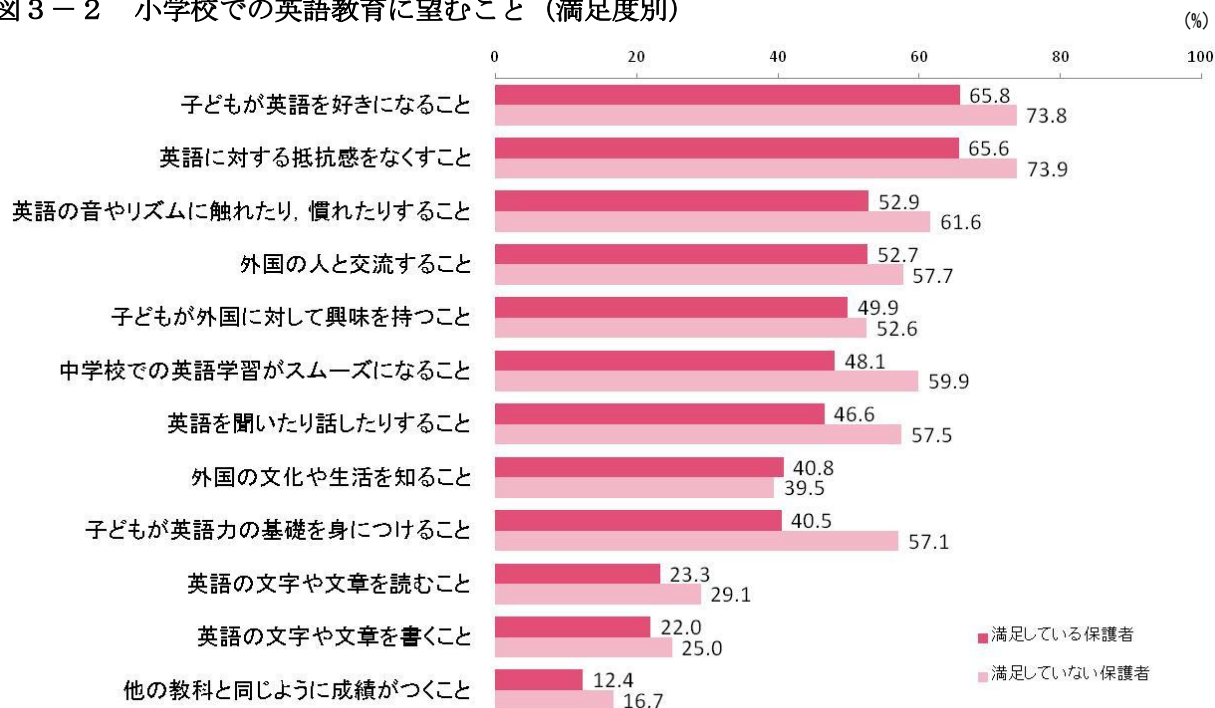
* 「お子さまは学校で英語教育を受けていますか」について、「受けている」と回答した保護者のみ。

図3-1-2 保護者の満足度



* 「お子さまは学校で英語教育を受けていますか」について、「受けている」と回答した保護者のみ。

図3-2 小学校での英語教育に望むこと（満足度別）



* 「とても望む」の%。

* 「お子さまは学校で英語教育を受けていますか」について、「受けている」と回答した保護者のみ。

* 「あなたは、お子さまの学校で行われている英語教育について、満足していますか」という問いで、「とても満足している」+「まあ満足している」と回答した保護者を「満足している保護者」、「あまり満足していない」+「まったく満足していない」と回答した保護者を「満足していない保護者」としている。